文京区アカデミー推進計画策定協議会
第１回文化芸術分科会会議録

日時：平成２２年４月２２日
午後６：３０～８：２０
場所：文京シビックセンター２１階　２１０１会議室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

文京区アカデミー推進計画策定協議会第１回文化芸術分科会会議録

（敬称略）

「出席委員」

座　長	水越 伸
委　員	内野 篤
委　員	長尾 栄一
委　員	中川 澄子
委　員	楢崎 華祥
委　員	笠井 美香
委　員	柳澤 愈
委　員	八木 茂

「事務局」

アカデミー推進部アカデミー推進課	八木 茂
アカデミー推進部アカデミー推進課	林　文昭
アカデミー推進部アカデミー推進課	佐藤 祐司
株式会社富士通総研	稲永 和年
株式会社富士通総研	中川 法子
株式会社富士通総研	瀬戸 香織

○水越座長：文京区のアカデミー推進計画策定協議会のですね、分科会は最初ですね、この文化芸術分科会の第１回を今から開催したいと思います。お忙しいところお集まりいただきまして、どうもありがとうございました。

今日からざっくり４回ですかね、月１回ぐらいのペースで、夏にかけて、この分科会としてやることをまとめていく、とりまとめ役になります東京大学の水越伸と申しますけれども、どうかよろしくお願いします。

それでは事務局のほうから、出欠その他の確認をお願いします。

○事務局：事務局の文化振興係長の林と申します。よろしくお願いいたします。本日の出欠についてご説明をいたします。新年度になりまして、人事異動等によって委員の変更がございました。この分科会のメンバーは従前のとおり、同じ顔ぶれでやらせていただけることになりましたけども、新たな委員としましては、観光分科会の商工団体の東京商工会議所文京支部からご推薦いただいていました新保事務局長から中井事務局長に変更がございました。また、生涯学習分科会および文化芸術分科会のメンバーの１人であります、アカデミー推進課長の毛利から、この４月１日で八木に替わってございます。また、スポーツ振興分科会の太田課長から、古矢課長に異動がございました。以上でございます。

○八木委員：はじめまして。４月からアカデミー推進課長になりました八木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○水越座長：毛利さんが１年で替わられたということで、八木さんにこれからお世話になりますけども、よろしくお願いします。それでは、自己紹介をしたいとは思うのですけど、自己紹介は後に回させていただきます。先に、今日、もろもろ資料の配付をしていただいていますので、その説明を、また事務局からお願いできますでしょうか。

○事務局：お手元に配付してございます資料の確認をさせていただきます。まずお手元に７点ございます。クリップでとめてあるものですが、座席表がございます。その次に、アカデミー推進計画策定協議会分科会委員名簿、４月１日現在のものがついてございます。続きまして、今後の分科会のスケジュール、第４回文京区アカデミー推進計画策定協議会の会議録（案）、文京区アカデミー推進計画基礎調査報告書、緑の表紙のものですね。続きまして、文京区アカデミー推進計画策定協議会分科会ご意見シート、あと、現況説明資料を添付してございます。

引き続きまして、本日お手元に配付してございます前回の会議録ですけれども、内容をご確認いただきまして、訂正がございましたら、４月 30 日金曜日までに事務局へご連絡ください。皆さまの訂正依頼に基づいて直しました後、会議録を公開していきます。訂正につきましては、できるだけ文書いただきたいと思っております。ただし、非常に簡単なものであれば、お電話でも結構です。皆さまからご連絡をいただきました後、協議会の山崎会長に確認をしまして、ホームページなどで公開していきたいと思っています。また、先ほど申し上げましたご意見シートですが、こちらも併せて４月 30 日金曜日までにお出しいただければと思います。以上でございます。

○水越座長：前回ってだいたいどんなことをやったのでしたっけ。僕が欠席した前回。全体で集って、ディスカッションを繰り返したわけですよね。

○八木委員：第４回につきましては、主に総論と各論の考え方、それから計画期間の問題、そのようなことも議論になったようです。

○水越座長：全体の構造が難しいから、基本的な問題ということですね。

○八木委員：新たな基本構想との関係ということで議論いただいておったような議事録を、今、

お手元に出していただいております。

○水越座長：それでは、自己紹介をしたいと思います。
　僕は今、東京大学の情報学環という、ちょっと変わった名前の大学院に勤めている水越です。どうぞよろしくお願いします。

○八木委員：文京区役所アカデミー推進課長の八木です。いろんな皆さまの知恵をお借りしながら、いい計画をつくっていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○柳澤委員：区民公募委員の柳澤です。歴史文化が好きということで、「文の京地域文化インタープリター」というのをやって、いろいろとこれも文京区のお世話になっているのですが。あと生涯学習関係ということで今やっております。以上でございます。

○笠井委員：区民公募委員の笠井です。文京区民によるミュージカルというのに参加させていただいて、すごく面白かったので、すごくこういう政策にも興味を持ちました。以上です。

○楢崎委員：文京区書道連盟の楢崎です。書は今や世界に進出しています。外人が書を絵画的に書いてインテリアとして楽しんだり、毛筆の書を T シャツに書いたりされる時代です。NHK ドラマ「止めはね」の影響か高校大学の書道部入部者が増え、又大学の書道科の受験者が増えたとか。文京区は秋の文化祭で書道展を盛大に開いております。よろしくお願いします。

○中川委員：文京美術会の中川と申します。以前から大変に文京区には芸術家が多い町だと、居住している方が多いと思います。文京区にはとても絵になる場所が多くて、どこでもよく私たち描いております。それは、文京区の方々も、以前は講習というか、ありまして、文京区のいろんな、坂の多い所とか、護国寺とか、そういった所を写生する講習会には参加しておりました、講師として。簡単ではありますが、紹介とさせていただきます。

○内野委員：民生・児童委員の内野です。文京区の出身じゃないのですけれども、文京区に来て、もう 14～15 年経ちます。本郷地区の方よりは、割ともとの小石川地区の方の活動が多いです。よろしくお願いします。

○長尾委員：文京区心身障害福祉団体連合会の長尾栄一です。この文京区は、本当に文学と深い関係がある。それから、文献学から申しますと、東京大学の史料編纂所っていうのは、あれは実は盲人がつくったのです。塙保己一というのがおりまして、これは生まれたのが 1746 年、亡くなったのが 1821 年なのですけども、この塙保己一が群書類従という 667 冊からなる古典を集めて、しかもそれが、これが異本か底本かといったようなことを調べてつくった文献なのですけども、その彼のつくった群書類従の後が、明治になって東京大学の史料編纂所になっていったと。そういうことがありまして、盲学校とも、盲人とも、少し関係が深いということがございます。
　よろしくお願いいたします。

○水越座長：これから皆さんと一緒に、文京区の文化芸術の部分のですね、一種のポリシーを考えていくわけなのですけど、私のほうから、やや僭越なのですが２点だけ、皆さんと、ぜひこういうことを考えながらやっていただけないかって思っていることがあって、そのことをまずお話をしときます。
　１つは、文化芸術というのをあまり狭くとらえない、なるべく広がりのあるものとしてとらえようじゃないかということですね。「文化とは何か」あるいは「芸術とは何か」、専門家の方もいらっしゃってあれなのですけれども、これはいまだに議論が尽きないところなのですね。我々がもしこれ、皆さんと一緒に文化学会というのをつくるんだったら別ですけど、文京区の中での区

民その他の方々の生活に根差した中で、文化や芸術の部分でいい形になっていくようにということですので、やはり皆さんにとって受け入れられる幅の広い文化、幅の広い芸術という概念を持っていく必要があるだろうと。そのときに、私は私で、皆さんは皆さんで、それぞれイメージに偏りがあるわけですね。全部ではないわけですから。それのどれがいい悪いじゃなくて、これはやっぱり全部をうまく合わせて、いわばここで、我々も含めた８人なり９人なりの文京区文化曼荼羅をつくるというか、曼荼羅のようなものとして少し文化を広げてとらえるということを、まず１つお願いできればと思います。

それからもう１点は、これはさっき楢崎先生がおっしゃったことに非常に関係があることなのですけど、僕が今言ったことも関係あるのですけど。例えば今、先生が書道のことでおっしゃったのであえて申し上げますと、書道は書道で非常に伝統のある芸術であり、なおかつ文化であるかと思うのですけれども、やはりどの地域でも、一定、書道をなさる方はいるのですけれども、例えば僕も今 47 ですけど、47 になってからもういっぺん書道をやろうということを、あんまり思う人は多くないと思うのですね。ところが今、先生がおっしゃったように、いくつかの映画が出てきたり、新しいイベントがあったりすると、それの善し悪しは別にして、いろんな人が来てくれるようになる。で、僕もやるかもしれない。

実はこれは文京区に限らずいろんな所で、「今やっている人はちゃんといるのだけど、新しい人がなかなか入ってこない」とかですね、「こんなに面白いことやっているのに、なかなかうまく広報がなされてないから、なかなか展開しないね」っていうようなことがたくさんあるかと思うのです。で、やってみると「あ、こんなに面白かったのか」とか「よかったな」っていうことになるのだけど、なんかのきっかけがないと、なかなか自分の守備範囲を広げない。これは誰でもそうだし、どこの地域でもそうだと思うんですね。恐らく文京区アカデミーの方々が日々悩んでらっしゃるのもそういうとこじゃないかと思って、なかなか広報しても人が集まらないとか、苦労しているのに、なんかものすごい有名の人が来たら、ものすごい人が来ちゃって、それだけだと思われてもしゃくだとかですね。

要するに、僕は学生たちとよく言っているのですけど、おもちがありますよね。おもちを焼くとピューッと膨らんでプーッとなりますよね。で、プーッとなってポコッと、そのプーッとなって膨らんだところが取れちゃったような感じで個別の芸術活動なり文化活動があって、おもちのもとのベースから浮き上っちゃうといいますか、新しい人があんまり入ってこなくて、やっている人だけでやっている。おもちのプーッと膨らんだところだけがポコポコ浮かんでいて、地面になっているもともとのおもちから浮いちゃっているようなことになっている。それが社会教育でかなりどこでも悩みなんじゃないかと思います。長尾先生、僕が今言ったイメージわかりますですか？

○長尾委員：わかります。

○水越座長：おもちから浮いちゃっている。

○長尾委員：はい。

○水越座長：できれば僕はここで、新しい人が書道に、あるいは絵画に来てくれるとかですね、書道、絵画に限らず、さまざまな芸術があるかと、あるいは文化があるかと思いますけど、日ごろあくせく働いている僕ら世代の人間が、「ああ、やっぱりこんな穏やかな景色があるのだな」っていうのを見直したりするとかですね。今やっている人も大事なのですよ。それはそれで頑張ってやっていただきたいのですけど、新しく地域のことに興味を持ったり、文化芸術に興味を持ってくれる、こう、なんて言うのですか、新規で来てくれる人をなんとか増やすっていうようなことをやっぱり考えるっていうのは重要なことなのじゃないかなと。で、おもちはそれぞれ別じゃなくて、絵画と書道と郷土史と史料編纂とかってあって、全部重なっていることのはずなのですね。必ずそういう意味でいうと、個別のものに別れていたこつぼになるっていうよりも、全部重

なっていると思うのですけど、なるべく今、関心がなかったり、関心があるのだけど来られない人に来てもらうために、どうすればいいかっていうことを考える。そのことを、ちょっと長くなりましたけど、２点目でぜひやってみたいなと思います。

繰り返し言うと、文化芸術を幅広くとらえるということと、今、やってらっしゃらない方に興味を持ってもらったり、来てもらったりするためにどうすればいいかということを考えてみるということですね。これはそんなに偏った意見じゃないと思うのですけど、ぜひ考えてみたいなというふうに思っています。

それでは、まず今日、皆さんとやってみたいことなのですけれども、文京区でいったいどういう文化芸術関係の活動がなされているかっていうことは、それぞれの皆さん、それぞれの立場でおわかりの方もあるかと思いますが、さっき言ったように、曼荼羅の全体はわからないと思うのですよね。それは失礼ながら、八木さんでもひょっとしたらわからないかもしれない。それで今日、直前で申し訳なかったのですけど、アカデミーの方々にお願いをして、とりあえず、文京区のこのアカデミーで管轄をしている文化芸術関係のものだと思われるイベントのパンフレットやチラシをあらかた集めました。それで今から、ここにいる皆さんが、私を除くと８名の方がいらっしゃるのですけど、４名・４名に分かれてですね、そのパンフレットやチラシを見ながら、どういう活動が文京区の文化芸術活動として、文京区役所を中心になされているかっていうことを、手元に付箋が用意してございますけれども、これに書き出して、とりあえず大きな模造紙にはり出してしくということをやってみたいと思います。

そうすると、例えばですけど、舞台は山のようにあると。だけど書道は１個しかないとかですね。逆かもしれないですし。で、文化芸術に関する文京区の、とりあえず区でやってらっしゃる活動を、とりあえず書き出してみて、どんな全体像になっているかっていうのをですね、マップにしてみるっていうか、さっき言った曼荼羅みたいなものをちょっとつくってみたいと思います。それを、中川先生と楢崎先生の間で分けさせていただいて、中川先生・内野先生・長尾先生、それから楢崎さん・笠井さん・柳澤さん。それで私も両方に顔を出したり口を出すようにしながら、２つのテーブルを今からこしらえて、模造紙を敷いて、それぞれ書き出してみる。それをどんな組み合わせでやるとグループになるかということを、それぞれのグループで考えてみるということを小一時間やってみたいと思います。

じゃあ、今、事務局の方に机を用意していただきますので、ちょっとお待ちください。

（作業中）

○水越座長：20 時になりましたので、あとお約束の時間は 30 分なのですけれども。まずそれぞれのグループの、今、付箋が模造紙にはられておりますけど、どういう感じなのかっていう説明を、それぞれのグループの方にしていただきたいというふうに思います。で、今日、議事録をとっていただいているのですけど、ここまでのワークショップの部分は、ほぼ雑談に近い形でなっていますので、ここからとっていただくということになります。

それでは、一応、第１グループとなっています長尾・内野・中川のお３人のグループのほうの曼荼羅について、お願いいたします。

○内野委員：一応、Ａグループということになっています、内野がやらせていただきます。まず、先ほど配られたパンフレットとかを見てだいたい書き出していったのが、この黄色の付箋になるのですけれども。あとピンクの付箋は、自分たちでかかわったことのあるものとか、見たり聞いたりしたことがあるものを一応書きました。枚数的には、そんなには固まってないのですけども、一番多かったのはやっぱり大ホールだったのです。この辺が音楽系ですね、コンサート系、ライブ、ミュージカルとかオペラとかクラシック、音楽教室なんかも含めて、全部こうした音楽系を固めてあります。あとグループとしては、

○水越座長：右下ですね。

○内野委員：右下に音楽系をまとめています。この右上にあるのが歴史系ですね。歴史の散歩とか、歴史の講義とか、そういうのがいくつか挙がっていました。

で、次のここの右上、２番目のグループは、絵画とか書道とか写真展とか。ちょっと写真とかも全部ひっくるめてまとめちゃったのですが、そういうもののグループがいくつかあります。

あと真ん中辺なのですが、古典芸能とか落語とか歌舞伎とか民謡ですね。この辺がチラホラ出ていましたので、あと茶道もちょっと近いので、この辺に置いてあります。茶道、「お茶のいまむかし展」とかですね。こういうのは、ちょっと古典芸能なのですかね、文化系という感じでまとめてあります。

あと左の上にいきますと、これは文芸編ですね。文の京文芸賞とか文学の、あと講演会なんかをやっぱりホール使ってやっていましたので、講演会とか。あと図書館で、若いお母さんたちに読み聞かせとかもやっていますので、そういうのも入れちゃおうということで、一応、文芸編ということで左上にまとめました。

あとこちらがですね、講演編ですね。講座とか講演編があるのですが、パソコン教室からはじまって、外国語の教室、あとは大学で体に関する講演とか、高齢者の健康の講演とか、感覚の講座とか、そういうのが一応グループとしてまとめられています。

ですから大きくすると、１、２、３、４、５、６つですかね。６グループぐらいに、一応、

○水越座長：６グループぐらいに分かれていますね。

○内野委員：ええ。あと、緑の丸をつけたのが、これは市民参加型というのですか。ただ単にプロの人がやっているのを、ただ見に行く、聞きに行くのではなくて、自分たちで実際にやっているというのに丸をつけて、そうすることによって見えてくるものがあるのではないかということで、してあります。そんなところです。

○中川委員：比べてみますと、音楽関係が非常に多いと感じました。かなり省略してもこの程度でした。やはりギャラリーが１個だけというのが、書道とか絵画展にも影響しているのかなと思っております。

○水越座長：確かにチラシやパンフレット、これ、全部出していただいたわけじゃないですよね。いくつかまとめるとこんな感じになったということかと思いますが、おっしゃるようなことはあったかなと思いますね。じゃあいろんな話は、多分もう１つのものも聞いてくると比較ができるかと思いますので、Ｂグループのほうをお願いいたします。

○柳澤委員：Ｂグループの柳澤です。いろいろ多岐にわたっていましてね、グループ化というと、なんか間違えたらいかんと思って慎重になって、なかなかグループ化しにくかったのですが、ズラズラッと書いたので相当多いのですね。やっぱり目立ちますのは、ここに書いてあるコンサート、合唱、舞踏、舞踊、民謡、謡曲。この辺のところが随分多いと。それで、赤丸は参加型で書いてあるわけです。それに類似に似ているところとして歌舞伎、演劇、これは宝生能楽堂もありますから。落語は時々落語劇をやっていますので、こういう鑑賞型のものもかなりあると。これが１つですね。

それからもう１つは書道、絵画。秋の文芸展なんかありますが、華道。お茶はちょっとはずれるのですが、まあここに入れて、陶芸展もあると。こういうことで、これは参加型でこういうグループがあると。

それからもう１つは文芸関係で短歌、俳句。この辺のところですね。文芸。この美博展というのは企画展のことですが、こういう美術展。こういうグループがあると。

それから、それ以外に大きなあれとして、最近はやりの街歩き、史跡めぐり、文学散歩。

こういうふうなことで、そのほかに何かないかということで、ちょっとスポーツ系になるので

すが、太極拳もなかなか文化であろうということで、参加型で。太極拳ということだと講道館がありますから柔道。柔道講座やなんかありますんでね。サッカーもミュージアムがあるということで挙げました。

そのほか、物的な存在でいろいろ多いじゃないかと話が移りましてね、それをズラズラ書きましたら、なんといくらでも出てくるのですね、いろんなものが。こういう形で。やっぱりこのシビックホールもはずせないということで、最後に入れたわけです。これ以外に商店街、地蔵通りとかいろいろいくらでもあるのですけど、挙げてしまえばね。まあ、こういこうことと。

講座関係はですね、アカデミア講座で一括したのは、私はこのいろいろな関係の仕事をしているので割合詳しいのですけど、105 講座ぐらいあるのですね。それもあらゆるジャンルのことをやっているのです、コンピューターから語学から。このようなやつはものすごく人気あるのですね。歴史、文学、それからエアロビクスとかフラダンスまでやっているのですね。このアカデミア講座っていうのは、東京の 23 区の中ではトップクラスなんじゃないですかね。文京区の講座も。そういうことで、これを１つ一括で入れております。

そういうことで、具体的にこのグループってうまく分けられなかったのですけど、かなりのものがあるということであります。以上です。

○水越座長：例えばこちらで感覚の講座とか、パソコン教室とかなっているものは、今おっしゃっていただいたアカデミア講座の１つのものというような意味ですかね。

○柳澤委員：魚のおろしから講座までありますから。五感の感覚を養うという講座もあるんです。

○水越座長：それはここで言う感覚の講座ということですね。

○柳澤委員：そうですね。ここには長尾さんがいるから入れなかったのですけど、長尾さんの盲学校というのは日本で一番の盲学校で、東南アジアの盲学校のセンターになっているのですよね。昔、コンドルさんが設計したのですよね。で、明治の元勲が、山尾庸三とか前島密とか、そういう人がみんな創立したのです。その施設が文京区にあるというのは、かなりのことなのですね。これはあまり知られていませんけど。

○長尾委員：現在地の前は、東洋大学が白山の所にありました。

○水越座長：さっき中川さんのほうから、ホールがあってギャラリーのことがあって、もちろんそれだけじゃないだろうけど、このシビックセンターの建物のあんばいというか、それによって結構、ハードウェアでもってですね、活動にちょっと特色が出ているのではないかというお話がありました。最近伺ったのでは、ホールの代わりに美術館をつくるかもしれないという話があったわけですね。もし美術館になっていたらどうなっていたのだろうということはありますが。

○長尾委員：私、感じたのは、弥生美術館っていうのがあるのですよね。ところが弥生美術館の活動というのは、あんまり私たちのとこへ来ないですね。

○水越座長：弥生美術館は、どっちかというと、観光客の方がよく行かれますね。あんまり文京区の人が行くより観光客の人がよく。よく僕、「弥生美術館はどこか？」って本郷キャンパスの中で聞かれます。なかなか言うのが難しくて。

皆さん、いかがでしょうか。Ａグループのほうでは、黄色でチラシやなんかのものを書き出していただいて、ピンクでもって市民参加型なり、ほかにやられている活動を出してもらいました。それからＢグループのほうも、ほぼ同じなのですけど、はじめこっちはピンクで書き出していただいて、後でブルーでもってほかのものを足していただいたということになります。もちろん、これが全部ではないにしても、ここに皆さんがお越しになってですね、やってくださったことで

すから、かなり僕は全体性があるというふうに思いますが。まずＡとＢって、そうむちゃくちゃな違いはないですね。配置の違いはもちろんありますが、たまたまなのですけど、音楽は両方ともここに来ているというか。なんかお２人とも説明が右から左へ行くのは、やっぱり右利きなのかなという感じがしますけれども、右に音楽のものがあったりというようなことはございますけどね。

○柳澤委員：やっぱりこっちのほうから発想が行っているのですね。

○水越座長：並べる時はそうかもしれないですね。Ｂグループのほうがどちらかというと、さっきご説明があった名所旧跡とか建物のようなものが、かなり左のほうに出ています。それからＡグループのほうでいうと、この市民講座系で参加型のものを左のほうにまとめてもらっている。僕はパッと見た感じ、どっちかというと、ＡグループのほうがＢグループよりもちょっと細かいけたで書いてくださっているかなと。つまりコンサートとかじゃなくて、例えばオペラ、クラシックとかなんかっていう、ちょっと具体性・抽象性のレベルが違うかなと思いますけど。ただ、大まかには似たようなところで、どちらかに何かがないというようなことは、あまりない感じがしますですね。

で、今、皆さんにやっていただいたのは、とりあえずチラシとして用意していただいたもの。それから、皆さんが既にご自分でおやりになっているか、あるいは体験をされたもの。それを２色のもので、それぞれのグループが書き出しました。で、僕らがこれから考えなくちゃいけないのは、これに何が足らないのだろうかとかですね、何がたくさん、ありすぎるとは言いませんけれども、「これはいっぱいあるのに、ここはこんな少ないよね」っていうような、どこが粗でどこが密かとかですね、「ここら辺、もうちょっとあった方がいいのではないか」っていうことを、この曼荼羅のいわばすき間に入れてくっていうことをしなくちゃいけないと思いますね。で、概ね相当おやりになっているのですよね。概ねいい活動を相当やってらっしゃる。それをまず基本にした上で、たくさんありすぎることと、あんまりなさすぎることを、ちょっと見ていくっていうことをやってくっていうのがですね、基本的には、これは次回の課題になるかと思います。

ちょっと今日はこれをこの後ご覧になっていただいてですね、次回、我々がやりたいことは、もういっぺん、この模造紙はですね、アカデミー推進課の方でとっといてもらいます、巻き物みたいにして。で、来月もういっぺんこれ広げてですね、それで、これに何が足らないのか。何がちょっと多すぎるのか。そういうところから文化芸術の、いわば課題っていうものを洗い出すっていうことをやってみたいなというふうに思っています。

まだ若干時間がございますので、例えばこういうことが課題なんじゃないかということを。今日はそれで解決するっていうか、最後まで整理はやりませんけど、少し皆さんで自由にディスカッションしてみたいと思いますが、いかがでしょう。先ほど中川さんのほうから少しコンサートホール等々の話が出ましたが、僕も、これはもちろんイベントになっているものだけですから、ほかのものまで足すとものすごい数があるとは思いますけど、やはりああいう刷り物になっているものでは、圧倒的に音楽系のいわばプロの人のやつが多いなという感じは、僕はしましたですね。

○事務局：そしたらここはどうでしょうね。

○水越座長：そうですね。これ、コロッと忘れて今の話をしましたけれども、今後、これからの課題を考えていくときにですね、もっと多くの人に来てもらうということを考えたときに何が課題かっていうことを観点にしてもらえればいいのではないかなっていうふうに思います。かなり広がりがあることはわかったかと思いますけど。先ほど、まとめて百いくつあるものを１個のアカデミア講座にしていただきましたけど、それが本当にたくさんあるわけですよね。

○事務局：私なんかは文化芸術に疎遠ですから、あまりこういうシビックホールとかですね、そ

ういう所に行くのは骨が折れますね。

○柳澤委員：男性の中年以降の参加が少ないのですね。女性はかなりのところに参加していますよ。

○長尾委員：女性は圧倒的です。

○水越座長：女性、圧倒的ですか。

○柳澤委員：圧倒的です。男性が少ないです。

○水越座長：前に笠井さんがおっしゃったか、市民参加型のミュージカルみたいな、すごく面白いことをやっているのに、あんまり広報が十分じゃないのではないかっていう話があったと思うのですけど。これは、僕は無理もないことだと思うのですけど、やっぱり勘三郎のやつは、ちゃんとカラーのですね、きれいなものでやるのだけど、もし市民参加型の歌舞伎があったら、それはカラーのっていうのはちょっと難しいとは思うのですけど。やっぱりプロのすごいやつの広報はすごいけど、そうじゃないものっていうのは、結構なんか少ないかなっていう感じはしますね。

○長尾委員：オペラを毎年やっていますね。去年の「カヴァレリア・ルスティカーナ」はとてもよかったですよ。市民参加のオペラですけど。

○水越座長：その前の年に入られた、

○笠井委員：でも私はミュージカルです。

○柳澤委員：歴史の史記列伝とか、かなり堅い話の講座をやりますと男性の人が来るのです。隠れている人がどんどん。歌舞伎の講座なんていうと女性が圧倒的ですね。

○水越座長：やっぱり歌舞伎は女性ですか。それは江戸時代からそうなのかな。

○長尾委員：私なんか毎月歌舞伎行きます。立見で行くのです、４階の。安いのです。

○水越座長：楢崎先生、中川先生、自分が主催をされたり講師をされる側から見ると、あらためてこういう全体を見られるとどうですか。ここは単純に言って、書道は少ないなと思って、ちょっと残念なのですけど。

○楢崎委員：書道展は行われています。会場のギャラリーシビックがなかなか取りにくいぐらいです。書道とか華道、絵画展とかやっていますね。いずれも文京区の人でなくて、よその人たちがどんどん入ってきていますね。地の利がよいのでしょうか。もっともっと小さい会も利用して欲しい。

○水越座長：書道が好きな人がですね。

○楢崎委員：そういう人たちのグループが入ってきてやっていますから。あと、書道講座のようなものを、作って頂きたい。

○柳澤委員：こないだ実用毛筆の講座ってあって、私、初めて書いたのですけれども。それは、なかなか難しいのは、手で教えますから、１人で６人ぐらいしか教えられないのですね。

○楢崎委員：そうですか？

○柳澤委員：そうすると 18 人いると、先生３人ぐらいで。そうでもないですか？

○楢崎委員：それはまあ、いろいろなやり方がございますでしょうから。

○水越座長：そうすると、展覧会、展示会は多いけど、

○楢崎委員：それは多いけれど、実際に書かせる、市民を指導するという講座が全くございませんね。

○柳澤委員：だから「市民はみんな書こう！」っていうキャンペーンをして、書道講座を連続的にアカデミーでやればいいんですよ。ずーっと。

○楢崎委員：それをね、私はしていただきたいと。

○水越座長：そうか、「メモは全部毛筆で書け」とか。

○中川委員：美術の講座も少ないですね。

○水越座長：展示会、展覧会は、やっぱりおやりになっています？

○中川委員：多いっていうか、グループの。申し込んで、抽選で当たれば借りられる形なので。

○楢崎委員：そういうことらしいですね。アカデミー講座に書道を組み込んで頂きたいと思います。前はあったのですよ。是非お願いします。

○水越座長：それは事務局の皆さん、なんか理由があるのですか。大変だとか。なんか役所的にあるんですか。

○事務局：すいません、勉強してきますので、申し訳ありません。

○柳澤委員：やっぱり講座を企画する人に、そういう関係者が少ないのでしょう。市民も参加して。

○楢崎委員：その講座の割り当てを外部に依頼され、それから抜けています。

○水越座長：結局、手間かけないとできないことですから。

○柳澤委員：私らも書道展とか絵画展を、しょっちゅう券もらって行くんですけど、絵画というのは、日展やなんか行っても、どういうふうな鑑賞の仕方をしたらいいのか。書道もどういうふうに鑑賞したらいいかっていうことを全然勉強してないのですね。

○楢崎委員：書道なんかは、日展の会場で説明会やっていますよ。そういうとこへ参加して、･･･

○柳澤委員：ですけども、この書道はこういうとこがうまいのだとか、そういう、･･･

○楢崎委員：１つ１つについてはないけれど、選抜したものについてはやっていますから、ぜひどうぞ。
○水越座長：やっぱり自分で描いてみる、書いてみるっていうことをやると、見る時に変わってくるかもしれないですね。児童的にはどうなのでしょうか。子どもも、かかわれるものはいっぱいあるのか。

○内野委員：子どものは、ありますよね。あとは、お年寄り系がありますね。踊りなんか結構やられていますよね、お年寄りのグループ。

○水越座長：学校の中で子ども向けにやっているみたいなのっていうのは、あるのですよね。

○内野委員：そういうのありますよね、学校でもね。

○水越座長：それはどういう形式をとるのですか。

○事務局：子ども向けに、例えば書道ですとか絵画ですとかっていうのは、文化庁の所管の事業で文京区も会場の手配や子どもの募集などに協力している「伝統文化子ども教室」っていうものがありまして、書道の教室もありますし、日本舞踊もあるのですけど、日舞や日本画も、あと三味線ですとかいうようなことをやる講座はございます。

○内野委員：あといろいろ、小学校なり中学校なり、PTA さん、やっていますよね。PTA 主催でいろんな。落語家呼んできて、やったりとか、

○水越座長：やっぱり所管が違うとわかんなくなるとこありますよね。教育委員会とかね。大学は大学でなんかやったりとか。僕はあれですよ、「文の京・大いなる学び」って、東大がここ３～４年、文京区と連携してやっている活動のワークショップをやったり、去年もやって今年もやんなくちゃいけないって、別の立場なのですけど、そういうのってあんまり見えないんですよね。

○長尾委員：福祉センターでもやっていますよ。福祉センターで、子どもの踊りのようなものを小さいグループがやっていますね、定期的に。

○水越座長：それではですね、皆さん、ちょっとこれ、ご覧になった上で、やはい一番いいのは、この写真なんかがあるといいのだと思いますけど。繰り返しになりますが、書き出してもらったもの、書き出して並べて初めてわかる偏りみたいなものをですね、少し意識して、次回、くどいようですが、これもう一度並べて、何が足らないのか、何が場合によれば多すぎるのか。で、どういうことをやってくといいのかっていう、これからの施策につながるような課題を洗い出すということを、次回はやってみたいと思います。今日がかなり大がかりに皆さんに動いてもらいましたけど、次回はここまでダイナミックに動くというよりも、今、出してもらったものの中でそれを議論してくっていうことをさせてください。今、ＡグループとＢグループに分かれていますが、別にこれは競争するものでもなんでもないのですよね。ただ、３～４人ぐらいで話すほうが話しやすいだろうと思って。あと、２つ違うと、違いから何か見えてくることがありますよね。で、３回目以降は、徐々にこれを一緒にしてきます。基本的には同じことですから。
　次回は、繰り返し言いますと、課題を考えて、この中に埋め込んでいくということをしたいと思います。一応、１カ月ございますので、コロッと僕なんか忘れてしまうのですけど、もしよければ「こんな課題があるな」っていうようなことをですね、メモ書きにでもして持ってきていただければ。それをまた次回付箋なんかに、貼ってもらうということをしてもいいかなっていうふうに思っています。今日明日中に考えておかないと忘れそうな感じがしますけれども。

○長尾委員：さっきの意見シートはどうなのですか。

○水越座長：意見シートの方は、どちらかというと、この会の進め方とか、それから施策につなげるときの課題みたいなことを書いていただければと思います。今、僕が申し上げた宿題、それは次回の時、その場でやっていただいても結構なのですけども、そのグループワークに関しては、意見シートには書いていただかない方がいいと思います。

それでは今日はここで終わりにしたいと思います。長時間にわたって、立って、中腰になっていただいたりなんかして、どうもすいませんでした、ありがとうございます。

○事務局：次回は5月19日、水曜日、また同じ時間、同じ場所で予定をしてございます。宿題も出されておりますので、少々考えてきていただければと思います。あと、先ほどお願いしました会議録のチェックと意見シートは、4月30日、今月末ですね、締め切りとさせていただきましたので、よろしくお願いいたします。以上です。